

ティ・エス テックのあゆみ

1960年の設立以来、私たちは60年以上にわたって自動車内装部品の開発・生産に取り組んできました。長い年月をかけて培ってきた技術やノウハウ、世界13カ国に及ぶグローバルネットワークを強みとして成長し続け、「座る」に関するさまざまな製品を供給しています。

主要な製品群



1960 東京シート株式会社 設立 前身の帝都布帛工業株式会社より二輪車用シート事業を引き継ぐ
1963 四輪車用シート事業開始

1977 北米進出

1997 ティ・エス テック株式会社へ商号変更

1996 南米進出

1994 中国進出
1994 アジア進出

2007 東京証券取引所市場第一部*上場

2010 創立50周年



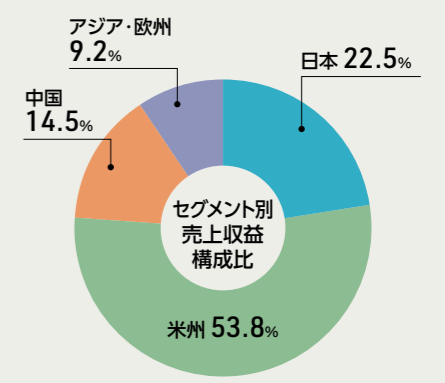
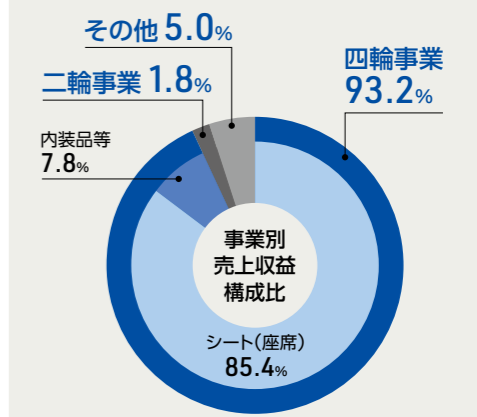
売上推移

売上収益(連結)

4,605 億円

営業利益(連結)

164 億円



2025年3月期

*2022年4月にプライム市場へ移行

▶ 品質への挑戦

当グループにとって四輪車用シートづくりの原点ともいえる、ホンダ初代CIVIC用シート。表皮の縫い目破れや、当時は日本人のみを想定して設計したことで、極端に大きな体格の方が乗るとシートフレームが変形するなどトラブルが頻発しました。こうした、トラブルを即座に社内共有し迅速に改善するシステムは、現在でも活かされており、当時の苦い経験が品質への強いこだわりへと受け継がれています。



ホンダ 初代CIVIC用シート 1972年発売

▶ 快適性の追求

人によって感じ方の異なる快適さや疲労度等の官能性能を定量化し、人間工学に基づいた研究を重ね、快適姿勢の独自理論を製品に反映するなど「快適で疲れにくい」シートを追求し続けています。



ホンダ CIVIC用シート 1995年発売
座席の高さを調整する機構を初採用。小柄な人でも運転しやすいポジションに調整できるようになった。



ホンダ ODYSSEY用シート 2013年発売
背もたれを倒すと連動して座面が持ち上がる。快適姿勢に近づけ、最上の快適性を実現。

▶ 強固な収益体質へ

事業拡大が進むにつれ、世界規模の金融危機や各国で起こる自然災害等、外部環境の変化から受ける影響はより深刻なものとなりました。そのような変化にも耐えられるよう取り組んだ、生産ラインの自動化技術をはじめとする徹底した開発・生産の高効率化が、現在の当グループの収益性の基盤となっています。



自動溶接設備

▶ 新たな価値創造

自動車業界は大変革期を迎え、自動車に求められる価値が刻々と変化しています。こうした状況の中、当グループはシートやドアにとどまらず、車室内空間全体をコーディネート可能な「内装システムサプライヤー」を目指し、新たな価値創造に挑戦しています。その成果の一部をお披露目する「次世代車室内空間発表会」を定期開催しており、本誌では、2024年に開催した際の、展示品をご紹介します。▶ P.26-P.29



ファミリーコンフォートキャビン シーンに合わせてシート間の協調制御により自在なシートアレンジを実現。多彩な機能を搭載し、広さを活かしたミニバンならではの空間を提案。